

第80回国民スポーツ大会青森県準備委員会 第2回施設専門委員会 結果概要

1 日 時

平成30年9月5日（水） 10：30～11：30

2 場 所

ウェディングプラザアラスカ 地下1階 サファイア

3 出欠状況

出席者 16名（代理出席1名）

欠席者 0名

4 議事概要

（1）委員変更の報告

委員8名が変更したことを報告

（2）説明・報告事項

- ①国民スポーツ大会への名称変更に伴う第80回国民体育大会青森県準備委員会の名称等の改正
- ②第80回国民スポーツ大会の準備経過
- ③第80回国民スポーツ大会青森県準備委員会における現在までの決定事項
- ④第80回国民スポーツ大会会場地市町村第2次選定及び第3次選定競技施設概要

事務局から①～④について説明。

（3）審議事項

- ・第80回国民体育大会競技施設基準の改正（案）
事務局から説明。原案どおり可決。

【質疑】

（委 員） いろいろと競技種目が追加となった部分がある。例えば、ビーチバレーボールが追加となっている。これは青森大会でビーチバレーボールをどこかで実施するために施設基準を設けているのか。ただ、ビーチバレーはどこで開催するかなどは、まだ決まっていないのではないか。国民体育大会開催基準要項で定めたものと、この委員会で決めようとしている施設基準はどういう関係になるのか分ら

ないので教えていただきたい。

(事務局) 会場地選定を行う前に、まずはこの施設基準を定めて、この委員会で審議して了承された後に、ビーチバレーボールとトランポリンの種目が追加されたので、この施設基準で各市町村に開催意向について照会し、選定市町村が決まれば、総務企画専門委員会で会場地選定を進めて行くという流れになっている。以上の事から、この施設専門委員会で施設基準を了承いただかないと、選定を進められないため当委員会を開いているというのが一番の目的となっている。

(委員) 分かりました。次に、配慮すべき事項についてさほど気にしなくても良いというような説明があったが、配慮すべき事項に練習場が必要になる等のことが新たに示されている。それらについては、現在、選定されている会場地で配慮されるべき事項が満たされているのか。新たに何か追加になるなどということは無いのか。

(事務局) 配慮すべき事項は競技毎に様々ある。委員がおっしゃったように、バレーボールであれば厳密に練習会場は何面なければならぬということを書いている。書かれていなくても、練習会場は必要だという団体もある。来年、中央競技団体正規視察があるが、その際、中央競技団体の方から、こういう場所を確保してほしいという要望等が出てくる。そういった先催県の内容について明記しており、後催県が参考にしていく部分となっている。配慮はするがこのとおり実施しなくても良いということでもあるため、一応、この辺を掲載しているだけである。あくまでも書いているからと言って、必ず実施しなければならないということではないということ为先催県から聞いている。後催県のために残していかなければならないものでもあるため掲載している。

(委員) 既に、選定されている会場については、配慮すべき事項を満たしているのか、また、新たに施設や仮設物が必要になるということは無いか。

(事務局) 3次選定まで内定を受けた会場地を、今年度の6月から12月にかけて、市町村及び県競技団体と一緒に練習会場や照明の度合い等について確認しているところである。必要とするものが無い場合は、来年、中央競技団体が視察に来るため、無くても大丈夫かということ、県競技団体から事前に確認いただいている状況である。練習会場や駐車場など、様々なものを想定しながら、市町村、競技団体といろいろと話をし、中央競技団体の正規視察に備えている。

(委員) 競技会場地の選定を行っている最中であるが、報道によると青森市では新しいアリーナを造る計画がある。開催2年前に設置するという話である。それが計画的に進んでいくと、現在、選定されてい

る競技会場を状況によって変更できるのか。また、スポーツクライミングについて、仮設の競技場を造るという事であるが、仮設であると大会後取り壊すこととなると思う。競技そのものの強化を考えて行けば、可能であれば常設にすることで競技力向上につながっていく。常設になるのであれば、早く設置し、強化のために練習すればレベルの向上につながるものと考えている。岩手国体の時に、そこに合わせて強化した結果、優勝や入賞が増え、その後も選手が国際大会等でも活躍しているということも聞いている。先の事を考えると、常設の方が良いと考えるが、この2点について教えていただきたい。

(事務局) まず、青森市の競技会場の件であるが、青森市からも当準備室に話が来ている。アリーナで開催される競技はバレーボールと卓球、スケート場で開催される競技がハンドボールであるが、これらの中で、青森市に体育館が出来た場合に、変更できるのかという話を受けている。手続き的な部分でいくと、2023年の国スポ開催2年前までに完成するのであれば、開催前年のリハーサル大会でも使用することとなるため、県の競技団体としっかりと話をした上で、青森市から場所の変更についての申し出があつて、総務企画専門委員会や常任委員会で審議し変更という流れとなる。どの時期に体育館ができるかということもあるが、開催2年前までにできるのであれば可能ということは伝えている。

スポーツクライミングだが、予算が絡む話でもあり、委員のおっしゃることは十分に分かるが、仮設で示しているのは、実は岩手国体、愛媛国体、今年の福井国体でもそうだが、福井は常設の施設があるが、国体となるとリードとボルダリングの施設が近くに無ければならないということで、近くにわざわざ持って来て設置するなどしたケースがあり、結果的には仮設で実施して、元に戻す形にして普段も使えるようにしている。その辺のことも踏まえながらスケート場の利活用を考えており、常設という話については、どちらが経費的に合理的な形となるのかを検討し、予算要求をしていくことを考えている。現時点では、具体的な話はできないが、検討を進めている段階である。来年度、当委員会を開催する時には、具体的な報告ができると考えている。

(委員) 岩手では、今年、全国体育施設研究大会が開催され、その時の講演で、常設にすることで、子供たちに関心を持たせるきっかけとなるという内容であった。小さいころから関わらせることも、競技人口を増やす手段と考えている。

(事務局) 岩手の話であるが、岩手の伊藤ふたば選手は中学校くらいから活躍して世界のランキングに入っている選手である。クライミングは

体重のこともあるが、小さいときから実施することですごい選手になれるということもあり、岩手の場合は彼女をオリンピックの選手にしたいということで、リードとボルダリングはあるけれど、スピード種目の壁が新たに必要ということから、県の協力の基で今年度、新たに設置したということである。3点持っているのは、国内で岩手の外、数件ということで岩手県内ではすごくスポーツライミングが盛んになっているようである。青森県内も民間施設でボルダリングの施設が青森市や弘前市、八戸市にもあり競技人口という面では結構いるようである。一番、問題なのはリードの施設がないことであり、そこを何とかしたいと検討している状況である。

(委員) 第78回の大会から国民体育大会の名称が変わったり、種目の追加においては、東京オリンピックの強化に向けた一貫ということで国体の中で種目が追加されるというような、一つの過渡期というか、これまでの準備の中では無かった部分であり、準備委員会の事務局や開催地においては、これまでと違い準備が大変な部分があると感じている。頑張っていたきたい。

以 上